

## ■ 研究所だより

岩城 由紀子

早いもので今年度も折り返しの季節となりました。この夏は猛暑日が続き、日中外に出ると息苦しいほどでしたが、肌寒く感じる気候になってきました。山形に住む会員の方からは、秋の気配を感じると教えて頂きました。皆様のお住まいの地域はいかがですか？

この夏、子どもが1歳の誕生日を迎えました。長いようであつという間の一年でした。私の住んでいる区では、1歳のお誕生日を児童館で祝うイベントがあります。カメラ片手に参加して参りました。同じ月に生まれた赤ちゃん20人ほどとその保護者が集まり、リズム遊びや絵本の読み聞かせを楽しみ、最後にはプレゼントをもらいました。

育休中は何度もこの児童館に遊びにきました。母子密室育児の孤育てに息が詰まりそうになったとき、児童館の乳幼児向けのプログラムは救いでした。まず出かける場所があること、そして他の保護者や職員の方と子育ての悩みや不安を分かち合えることが支えとなりました。

ところでこの児童館は、この4月より子どもセンター、ティーンズセンターという名前が看板に付け加えられました。主に乳

幼児や中高生を対象とした事業を行うモデル的な児童館となったためだとのことです。平成19年に策定した放課後子どもプランを受けて、区は区内全ての小学校に放課後の居場所を作り始めており、小学生の放課後の居場所は学校の中へ、児童館は乳幼児親子や中高生のための居場所へと移行していくようです。

児童館のお便りを見ると、確かに昨年より乳幼児向けプログラムや中高生向けプログラムが充実しており、小学生向けの案内は見当たりませんでした。

未就学児の子どもと親や中高生にとって、過ごしやすい場所になることを期待する半面、0歳～18歳の異年齢の子ども同士の交流で生まれていた、ルールを教え合うなどの良い関係がなくなってしまうこと、家庭でも学校でもない場所に居場所が必要な小学生がいることも考えなくてはいけないと思いました。

現在この区では、労協センター事業団(ワーカーズコープ)が放課後クラブを2箇所運営しているようです。一市民として今後の活躍に期待、応援していきたいと思います。